

平成29年度議会運営委員会行政視察報告書

議会運営委員会委員長 深沢 幸子

平成30年2月1日（木） 新潟県長岡市議会

○議会運営状況と議会改革の取り組みについて

新潟県長岡市は、東京から高速道路で約3時間、上野駅からJR新幹線で1時間半のところに位置しています。市庁舎が長岡駅と隣接していて、雪深い長岡市ですがとてもアクセスが良い所でした。

長岡市は、平成16年7月13日に豪雨水害、同10月23日に中越大震災に見舞われ、甚大な被害を受けました。未曾有の大災害から立ち上がるべく平成17年に5町1村と、平成18年には1市2町1村と、そして平成22年に1町と次々と合併広域化し、新たなまちづくりをスタートさせています。

平成24年4月には、長岡駅前にシティホールプラザ「アオーレ長岡」がオープン。アリーナ、ナカドマ、市役所から成るアオーレ長岡は、市民協働・交流の場として長岡の新しい顔となっています。東日本大震災から7年、開かれた議会を目指す私たち議会と、市民協働日本一を目指す本市として、人口規模等は異なりますが学ぶ点が多くありました。

施設については、「市民に開かれた議会」というコンセプトから、議場は地上1階の屋根付き広場に面して配置され、外を歩く方が、ガラス張りの壁面を通して、いつでも議場の様子を伺うことができる構造になっている（その他の庁舎施設もガラス張り等により外部から見える部分が多い）ことに驚きました。

議会運営については、定例会における常任委員会の冒頭に、議案審査に先立ち、所管事項に関する質問を行っているとのことであり、本会議における一般質問との差別化が図られていると感じているようです。

また、議会活性化特別委員会は、平成29年6月、時代のニーズに合った議会活性化に取り組むべきとの考えから再設置され、現在の検討課題は

- 1 情報通信機器の活用
- 2 通年議会の導入
- 3 議会基本条例の制定
- 4 本会議のあり方（休日等議会の開催、代表質問制の導入）
- 5 常任委員会・特別委員会のあり方（請願等参考人招致の検討、特別委員会における中間報告等）
- 6 議案の調査・政策立案について（海外視察等）

があがっているようです。

龍ヶ崎市議会では、議会基本条例は既に制定されておりますが、長岡市議会では、議会

基本条例について、まずその必要性について議論をはじめたところだということで、説明のなかでも、結論がでるまでにはある程度の時間を要しそうだとのことでした。

前回の特別委員会が廃止されて2年後、再度、特別委員会を立ち上げ、これまでを評価し、さらに議会を活性化し、市民に開かれた議会を目指すんだという長岡市議会の強気な思いに共感するところが多くありました。当市議会でも、尚一層の思いで議会を活性化していきたいと思います。

平成30年2月2日 新潟県長岡市

○ながおか・若者・しごと機構について

ながおか・若者・しごと機構の設立は、少子化や若者の首都圏流出が進む中、全市を挙げて人口減少対策に取り組むべく、平成27年10月に長岡総合戦略「長岡リジュベネーション～長岡若返り戦略～」を策定したことを契機としています。この戦略により、将来の長岡を担っていく「若者」を地方創生の「主役」と捉え、「若者自身が参加、企画、実現し、魅力を生み出すまちづくり」などの考え方にに基づき、「若者定着」や「働く」など7つの戦略を進めていくこととされ、その推進役として機構が設立されたそうです。

主に40歳未満の若者による理事会（17名）と事務局（市職員）が協力し運営しており、「若者や企業の情報収集・発信」「若者提案プロジェクト実現」「若者の出会い・居場所づくり」「長岡で学ぶ・働く魅力創出」の4つの柱から構成される事業については、理事会の下に各部会を設け、事業計画の検討などを行っていて、助言等をいただくために、アドバイザーも置いており、40代から60代の経験豊富な経営者等が任命されているそうです。

具体的な支援の内容としては、若者の意見や提案を様々な分野の施策に積極的に取り入れ、実現させていくため、「ながおか若者会議」を設置し、平成27年度には、ワークショップを通じて、学生と社会人との交流事業「しごとーク」等、実績としては6つのプロジェクトが行われたとのことでした。

若者に、夢と希望を与え、何より若者たちの可能性を信じ実践している担当者の熱い説明に議員全員が感動を覚えました。当市にも、若い人材が沢山います、何かの形で、学んだ事を活かしていきたいと思います。